



2024.6.7
第184号

会津の「ひと・もの・こと」と「ひと」



会津教育事務所
所長 吉川 武彦

幸せなことに、私は毎日鶴ヶ城天守閣を前に見ながら出勤しています。朝に夕に、晴れの日や雨の日、桜の舞う春、新緑の夏、紅葉の秋、赤瓦が白銀となる冬、表情が変わる城と風景から、毎日エネルギーをもらっています。

桜と言えば、鶴ヶ城の桜のほか、日中線のしだれ桜、慧日寺、亀ヶ城跡、白津、観音寺川の桜も拝見しました。それぞれに花の色、樹木の形、周囲の景観が異なり、見応えを感じました。

只見川沿いの景色も見事で、山や川、鉄道や橋や駅を写真に収めています。ある「ひと」に橋梁ビューポイントから絶景を眺めた話をした際、四季全てを見てこそだ

と伺い、春夏秋冬に出かけ全ての景色をコンプリート。おかげでその感動を目と写真に焼きつけることができました。

伝統的な祭典にも感銘を受けています。子供たちが踊り奏で伝統を継承している慶徳御田植祭、極寒の中、無病息災を祈り禪姿で麻縄を登る七日堂裸詣り、会津藩士の霊を慰め先人に感謝する会津藩公行列、伊佐須美神社のあやめ祭り等々です。もちろん、まだ拝見していない「もの・こと」がたくさんあり、本年度も楽しみにしているところですよ。

食も堪能しています。日本酒はもちろん、蕎麦、ラーメン、馬刺し、会津地鶏、こづゆ、田楽、ソ

発行
村議会 支会 支会
町議会 支会 支会
市協議会 支会 支会
県教育委員会 支会 支会
福島県教育連 支会 支会
北会津 支会 支会
北会津 支会 支会

編集
福島県教育庁
会津教育事務所

編集協力
小・中学校長会

ースカツ丼、会津みしらず柿等々、とにかく美味しい「もの」そのこだわり等を「ひと」に聞き、存分に味わっています。

家内は赤べこが好きで、その中にコーナーがあるほど。そのほか、漆器、木綿、絵蠟燭などにも関心があり、会津に足を運ぶとあちこちで手に取っています。

＊ ＊ ＊
昨年度、全ての小・中・義務教育学校を訪問させていただきました。大変興味深かったのは、いわゆる地元を素材・題材とする学習に、子供たちが目を輝かせて取り組んでいるということです。単元をつくる、開発する、組み立てることは学校経営上、教育課程上、多くの努力が必要でしょう。しかしながら、それを見事にマネジメントしている学校、教師がたくさんおられたのです。会津の「ひと・もの・こと」を子供たちの学びへとコーディネートしている「ひと」の力を感じました。

会津での勤務、二年目となりました。本年度、私自身、会津の「ひと・もの・こと」をどう感じ、どう味わう「ひと」でいられるか、ワクワクしています。

管理関係重点事項

令和六年度「会津教育事務所推進プラン」の視点⑥「持続可能な教育環境づくり」の取組により、教員の力、学校の力が最大となるよう、域内市町村教育委員会や学校、地域、関係機関との連携を密に図り、管理業務を推進してまいります。

1 教職員の心身の健康保持や児童生徒と向き合う時間・自己研鑽の時間を確保するため、管理訪問等の指導助言により「教職員働き方改革アクションプラン」に基づく取組の推進を図ります。

○ 「実践モニタリング校支援事業」の成果を普及することにより、業務効率化の推進や教職員間の業務の平準化を推進するとともに、各学校の状況に応じた業務改善の取組を支援します。

2 学校全体の教育力向上を図るため、校長研修会等において内容を充実させ、校長によるチームとしての学校マネジメントが機能するよう支援します。

○ 各種会議や所長・管理訪問等での指導助言を通して、校長のリーダーシップによる学校マネジメントの強化に努めます。

3 域内服務倫理対策会議等、様々な機会を捉えて管理職としての危機管理意識の向上や教職員の倫理観・使命感の高揚を図る取組を支援します。

○ 「信頼される学校づくりを職場の力で（令和六年四月改訂版）」等の活用促進や、危機管理に係る情報提供に努めます。

会津教育事務所は、学校課題の解決が図られるよう、市町村教育委員会と連携して人事業務を推進するとともに、学校・家庭・地域が一体となつて人間力に満ちた人材の育成に努める「会津の教育」を支援してまいります。

社会教育関係の重点事項

～家庭の教育力・地域の教育力の向上を目指して

○個人と社会の Well-being（一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せ）の実現

（R6 福島県教育庁 社会教育課事業全体構想より）

○人間力に満ちた人材の育成

（R6 会津教育事務所推進プランより）

1 家庭教育の推進

「不登校」は全国的な課題であり、会津域内でも大きな問題となっています。地域家庭教育推進会津ブロック会議では、昨年度までの3年間PTA代表者や家庭教育に携わる方々と協議し、家庭教育に役立てていただけるよう「子どもと普段からの関わり」や「子どもの変化に気づいた時の関わり」についてのリーフレットを作成しました。さらに、多くの情報を（詳細版）として、本所HPに掲載しております。ぜひ一度御覧ください。（右下の会津教育事務所HPのQRコードより）

本年度は、新テーマとして「親子のコミュニケーション」に焦点を当て協議いたします。

また、家庭教育に関する研修会の開催、不安や悩みを抱えている家庭に対し、個別かつ継続的な支援を行う「家庭教育支援チーム」の設置も促進し、家庭教育支援の充実を図ってまいります。

2 地域の教育力の推進

地域における教育力の低下や家庭の孤立化、学校を取り巻く問題の複雑化等の課題に対して、社会総がかりで対応することが求められています。そのため、地域と学校がパートナーとして連携・協働する組織的・継続的な取組が必要となります。さらに、学習指導要領の目指す「社会に開かれた教育課程」の実現のため、学校は地域と連携・協働を一層進めていくことが求められています。

会津域内の各地域の実態や特色を生かした取組が一層充実されるよう関係者間の理解促進、連携強化のため研修会を開催します。ぜひ御参加ください。

※ 各研修会の内容や申込方法等については、随時本所HP等で御紹介します。

- **地域連携担当教職員等研修会**（対象：教員、教育行政に関わる方等）
期日 令和6年7月11日(木) 会場：会津若松市北会津公民館
- **家庭教育支援地区別研修**（対象：家庭教育に関心のある方等）
期日 令和6年7月31日(水) 会場：会津若松市北会津公民館
- **地域学校協働研修会**（対象：地域学校協働活動推進員等）
期日 令和6年8月5日(月) 会場：会津自然の家



会津教育事務所
ホームページ

令和6年度 会津教育事務所 指導の重点【前期】

会津の強み【令和5年度の学校訪問や各校の学力向上の取組、各種研修会協議から】

- 1 児童生徒の「対話」を意識しながら授業が展開されるなど、授業改善の意識が広がりつつある。教職員が一丸となって授業改善に取り組んでいる学校が増えている。
- 2 児童生徒のよさを見取り、学級全体に広げていくような教師のコーディネートが見られる。生徒指導の機能を生かしながら、児童生徒が互いに認め合えるような学級集団づくりに取り組んでいる学校が増えている。
- 3 ユニバーサルデザインの視点を大切にした授業づくりが行われている。児童生徒が「分かる・できる」授業を目指した授業実践が増えている。

会津の課題【令和5年度全国学力・学習状況調査結果、学校訪問等から】

- 1 全国平均正答率を見ると、国語（小）はおおむね全国平均であり、国語（中）はやや下回っている。算数（小）はやや下回っており、数学（中）及び英語（中）は下回っている。
- 2 平日や休日において、ゲームやスマートフォン等を使用する時間が多くなるにつれて、各教科の正答率が低下する傾向が見られる。
- 3 児童生徒の考えを集約したり、意見を交流したりするなど、ICT機器を効果的に活用した「協働的な学び」の促進が求められる。
- 4 不登校が年々増加し、1,000人あたりの出現率が全国や県平均を上回る傾向が見られる。

学びをつなぐ、育ちをつなぐ教育

第七次福島県総合教育計画

令和六年度学びの変革推進プラン

確かな学力

- 1 主体的・対話的で深い学びの実現
- 2 学習の連続性を持たせる基盤づくり
- 3 学力向上策の組織的な推進による授業改善
- 4 カリキュラム・マネジメントの充実

居場所づくりと絆づくり

- 1 不登校の未然防止と早期対応
- 2 いじめ見逃しゼロ
- 3 情報モラル教育の充実
- 4 心に響く道徳教育

共に学び、共に生きる教育

- 1 校内支援体制の充実
- 2 ユニバーサルデザインの視点による授業づくり

健やかな体

- 1 体力向上と健康推進
- 2 教育活動全体による食育の推進

育ちをつなぐ学び

- 1 キャリア教育の推進
- 2 幼児教育の充実

新しい学校に希望をもって

金山町教育委員会教育長 滝沢 敬樹 氏

金山が町政を施行したのは、昭和33年のことで、今から65年前のことだ。当時は、4ヶ村が合併し、人口は12,000人近くだった。それが現在は1,800人余り、約七分の一に激減した。

平成18年には、少子高齢化が進行する中、8校あった小学校が2校になり、3校の中学校も2校になった。それでも、児童生徒数の減少がみられるため、教育委員会では、教育施設適正配置等委員会を設置し統合の検討を始めた。

10月には答申が出され、平成21年4月に2つの中学校を1つに統合した。答申では、中学校統合後、小学校についても統合を進める予定となっていたが、地域から小学校の存続を求める声が強く、当時の町長が小学校の統合については見送ることとした。その結果、金山中学校と金山小学校、横田小学校の3校となった。

その後も少子化は進行し、横田小学校だけでなく金山小学校も完全複式となった。横田小学校は全校児童数が10名を下回り、児童がいない学年も出てきた。保護者から心配する声も聞かれ始め、令和7年4月に金山小学校と横田小

学校が統合することを決定した。

学校の統合は、地域の感情もあり簡単ではない。統合の答申があつてから15年が経過した。横田小学校は小さな学校ではあつたが、子どもたちは仲が良く、運動や勉強に熱心に取り組み、地域に愛される学校だった。学校の存続を願う声もあつた。また、統合が遅過ぎるという意見も聞かれた。その中で、学校がなくなるのは残念だが、統合はやむを得ないというのが多くの住民の考えだった。

新しい学校の名前は「かねやま小学校」と決まった。4学級36名程度の学校になる予定である。子供たちが、統合を喜び、新しい学校に希望をもって元気に通学することができるよう、来年4月の開校に向けて努力する毎日である。



我がまちからの情報発信

喜多方市教育委員会

喜多方の染型紙「会津型」活用の広がり

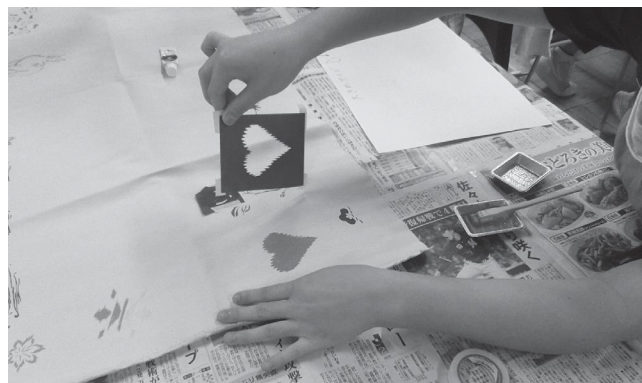
「会津型」とは、江戸後期から昭和初期にかけて、喜多方の小野寺家を通じて販売・製造された染型紙（和紙を柿渋で貼り合わせた「渋紙」に彫刻刀で柄を彫ったもの、主に布に柄を染めるために使う道具）です。同家は東北一円に会津型の販売網を広げますが、昭和10年代で型紙商としての歴史に幕を閉じます。小野寺家の蔵に残された染型紙や関係資料など約37,000点は、市へ寄贈され、平成15年に福島県の重要有形民俗文化財に指定されました。

四季の花々やユーモラスな生き物たち、伝統的な柄からモダンでおしゃれな柄まで、多種多様な会津型は、日常に寄り添い私たちの心を楽しませてくれます。そんな会津型のデジタルデータは、どなたでも自由に利用することができます。

喜多方市では、この会津型のデザインを活用して他分野（教育・観光・商工・福祉など）と連携を図ることで、身近に文化財を楽しむまちを実現し、文化芸術の持つ創造性を地域振興に活かす取組を進めています。教育分野においては、市内学校・公民館をはじめ、未就学児、支援学校生徒、高校生、大学生、大人など幅広い対象者への講座・ワークショップを行ってきました。図案を考える、型紙を彫る、色差しをするなど、型染めの各工程を分割し、対象者のレ

ベルに合わせて内容を工夫することで、あらゆる人々が喜多方の文化に触れながら、豊かに活動する機会を創出しています。

産業として多くの人々の暮らしに「柄」を届けた会津型。時を経て、文化財として喜多方の歴史文化を伝えるものになり、活用の裾野が広がってきています。会津型の取組をきっかけに、喜多方の豊かな歴史文化資源が、時代の流れとともに新たな価値へと生まれ変わり、身近で愛される未来を思い描きながら、継続して事業に取り組んでいきます。



子どもが「会津型」を使って布に柄を染め付ける様子

令和6年度 会津教育事務所推進プラン

強み	域内の現状	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、協働的な学びを推進している学校が多い。 ○ 児童会・生徒会が中心となった校則の見直しなど、主体的な態度を育む場の設定をしている学校が増えつつある。 ○ 各市町村の社会教育が充実し、地域学校協働本部の設置及び学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の導入が進んでいる。 ○ 特別支援学級や通級指導教室における特別の教育課程編成の工夫や自立活動の指導の充実に取り組んでいる。 ○ 体力・運動能力調査結果分析による運動身体づくりプログラムの全校実施(小)、授業内外の補強運動の実施(中)など、組織的な取組により、体力向上が図られている。 		<ul style="list-style-type: none"> ● 小・中学校ともに学力調査の平均正答率が低い。 ● 話し合いのコーディネートが十分でない授業、振り返りの場面でねらいに沿った適切な評価がなされていない授業が見られる。 ● 不登校数が小学校で増加傾向にあり、小・中学校ともに出現率が全国・県平均よりも高い。 ● 地域社会における支え合いやつながりの希薄化により地域の教育力が低下している。 ● 個別の教育支援計画や個別の指導計画が交流及び共同学習の場で十分に活用されていない。 ● 肥満傾向児出現率が県平均より高い。

人間力に満ちた人材の育成 ～ 学びをつなぐ・育ちをつなぐ会津の教育 ～

<推進ビジョン> 域内の市町村教育委員会、小・中・高等学校長代表者会をはじめとする地域や関係機関と連携し、学校・家庭・地域が一体となって、人間力に満ちた人材の育成に努めます。

※人間力に満ちた人材…学習や経験から学んだ様々な力を生かして、自らの道を切り拓き、社会に貢献することができる人材

視点① 「学びの変革」の推進【施策1・2・6】

- 域内の実態を踏まえた「指導の重点」を前期・後期に作成し、学校訪問や各種研修会で「確かな学力」の向上を図るための支援を充実させます。
- 「ステップアップAizu」を開催し、具体的・実践的な授業の進め方や学習方法等の講義・演習を行い、教員の指導力向上を支援します。
- ふくしま情報モラル診断等による児童生徒の実態把握の普及とともに、ICTを効果的に活用した授業の周知、徹底に努めます。
- 各校で個に応じた指導の実現に向け、全国・県学力調査の分析・活用方法に関する研修を実施します。

視点② 人間性・社会性の育成【施策3】

- 域内シンポジウムや教育相談研修会等で不登校等の未然防止・初期対応の研修を充実させ、学校の教育相談体制づくりを支援します。
- 児童生徒一人一人の夢や進路実現に向けた温かみのある学級風土づくりや、主体的な生活態度の育成に向けた指導助言を通して、不登校出現率の低下を目指します。
- 道徳教育の充実を図るため、道徳推進協議会等で「考え、議論する道徳」授業の成果を普及します。

視点③ 健康・安全に関する指導の充実【施策5】

- 学校訪問等で肥満等の健康課題に対応した実践事例を提供し、保健・安全教育の充実を図ります。
- 「自分手帳」活用についての研修会で有効な事例を周知し、健康マネジメント力の育成を支援します。
- 各種研修会や学校訪問等において、各校の体力向上推進計画の見直し・改善を助言し、体力向上と運動習慣の定着を支援します。

視点④ 家庭の教育力・地域の教育力の向上【施策3・4・5】

- 家庭教育支援の充実を図るため、家庭教育支援者の養成及びスキルを高める研修会を実施し、「家庭教育支援チーム」の設置も促進します。
- 関係者間の連携強化を図るため、教職員及び社会教育関係者等を対象に「地域学校協働研修会」、「地域連携担当教職員等研修会」を開催します。
- 地域の実態に応じた、市町村公民館職員等を対象とした公民館訪問や社会教育研修会を開催します。

視点⑤ 切れ目のない支援体制の整備【施策3】

- 校内支援体制の充実と教員の専門性の向上を支援するため、特別支援教育研修会等の充実を図ります。
- 合意形成に基づく「個別の教育支援計画」の作成・活用・引き継ぎ、合理的配慮の提供によるきめ細かな児童生徒支援の充実を図るため、各園・校のニーズを踏まえた相談支援・研修支援を実施します。
- ユニバーサルデザイン視点による学級経営や学習指導の研修会を開催し、一人一人のニーズに応じた実践力の向上を支援します。

視点⑥ 持続可能な教育環境づくり【施策2】

- 教職員の心身の健康保持や児童生徒と向き合う時間・自己研鑽の時間を確保するため、管理訪問等の指導助言により「教職員働き方改革アクションプラン」に基づく取組の推進を図ります。
- 学校全体の教育力向上を図るため、校長研修会等において内容を充実させ、校長によるチームとしての学校マネジメントが機能するよう支援します。
- 域内服務倫理対策会議等、様々な機会を捉えて管理職としての危機管理意識の向上や教職員の倫理観・使命感の高揚を図る取組を支援します。

「令和6年度学びの変革推進プラン」の実現を目指す

- 施策1：「学びの変革」によって資質・能力を確実に育成する
- 施策2：「学校の在り方の変革」によって教員の力、学校の力を最大にする
- 施策3：学びのセーフティネットと個性を伸ばす教育によって多様性を力に変える土壌をつくる
- 施策4：福島で学び、福島に誇りを持つことができる「福島を生きる」教育を推進する
- 施策5：人生100年時代を見通した多様な学びの場をつくる
- 施策6：安心して学べる環境を整備する